

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700856		
法人名	グループホームあさひの里		
事業所名	有限会社グループホームあさひの里		
所在地	〒089-3311 中川郡本別町柏木町156-1番地 (電話)0156-22-4387		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年10月8日	評価確定日	平成21年10月29日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤5人, 非常勤5人, 常勤換算	10.15人

(2)建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1階	~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	冬期間暖房料 年54,000円	
敷金	有(円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800円			

(4)利用者の概要(10月8日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 90.4歳	最低	83歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	本別町国民健康保険病院	賀陽歯科医院
---------	-------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は山林に隣接している閑静な団地の一角に位置し、指定介護予防認知症対応型共同生活介護、指定認知症型通所介護、医療連携体制加算、短期利用共同生活介護の指定を受けている。職員は事業所の理念を理解しており、質の高いケアを実践し、利用者の信頼も厚い。長年住み慣れた利用者が多く、ゆったりと、のんびりくらしている。利用者や家族の依頼によりターミナルケアを実施中であり、職員のケア意識がさらに高まっている。本年6月にスプリンクラー消火設備、自動火災報知設備、火災通報装置を設置している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者や家族の依頼によりターミナルケアを実施しており、利用者、家族、看護師、担当医と話し合い意思確認書を作成している。夜間の消防訓練については消防署の指導を受けながらや町内会と話し合うように取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が参加して、外部評価の結果を踏まえながら改善して取り組んでいる。評価の結果は運営推進会議に報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議はおおむね2~3ヶ月に1回実施している。主な討議内容は事業所の運営状況、自己評価及び外部評価や介護サービス情報の公表の説明、事業所行事の報告など行い助言を得ている。会議内容は記録して職員会議で協議し改善している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の面会や送迎時に利用者の近況や金銭出納帳の内容を報告したり、相談や苦情を受け付けている。事業所内に苦情相談窓口があり、国、道、町にも苦情相談窓口があることを知らせている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会は事業所に理解が深く協働して毎月1回介護予防教室を開催したり、事業所の消防訓練や救急救命訓練に参加したりして交流を図っている。近所の人は自由に事業所を出入りしている。町内にSOSネットワークが整備されている。中学生の職場体験実習を受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人福祉サービス評価機構Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「利用者が家庭的な環境のなかで地域住民と交流を図りながら日常生活を行えるよう自立支援する」の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は職員会議を通じて理念を理解し、ミーティングで確認し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会は事業所に理解が深く、協働で毎月1回介護予防教室を開催したり、事業所の消防訓練や救急救命訓練に参加している。事業所は町内会の行事に積極的にに関わり、住民が自由に出入りしている。中学生の職場体験実習を受け入れているなど多岐にわたり交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、外部評価を参考に全員で取り組んでおり、評価結果を運営推進会議に報告して助言を得、職員会議で検討して改善し、質の高いケアに取り組んでいる。		

5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議はおおむね2～3ヶ月に1回実施している。主な討議内容は、事業所の運営状況、自己評価や外部評価、介護サービス情報の公表についての説明、事業所行事の報告などを行い、助言を得ている。会議内容は記録して職員会議で討議して改善している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町主催の「健康長寿まちづくり会議」「介護サービス連絡会」「女性未来会議」や研修会に積極的に参加し連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの担当員が日頃の状況を、月1回自筆でお便りをつくり、金銭出納帳の写しと一緒に面会時に渡している。面会に来ない家族は電話で促したり、郵送している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会や送迎時に相談や不満、意見や苦情を聴いている。運営推進会議に家族の代表が参加して意見等を反映している。事業所内に苦情相談窓口があり、国、道、町にも苦情相談窓口があることを知らせている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに担当員をおき、支援をしているが、日頃は職員全員で支援しており、職員の異動はあるが、利用者へのダメージはなくスムーズに対応している</p>		

5. 人材の育成と支援				
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>町主催の「ケアマネージャ連絡協議会」などの研修に参加したり、「北海道グループホーム協議会」や「十勝グループホーム協議会」に加入し、研修会や講演会に参加させている。参加者は職員会議で報告し、職員に周知させている。</p>	
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道グループホーム協議会や十勝グループホーム協議会に加入し、近隣町村の事業所とスタッフ交換研修を実施したり、複数事業所連携事業に参加して連携を図っている。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族から利用要望があれば、訪問面談を行い、サービス内容を説明し、希望があれば見学やショートサービス、ディサービスを体験させて馴染みながら入所できるように取り組んでいる。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者信頼関係があり、共に暮らす仲間として、安心して笑顔で暮らしている。</p>	

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1.一人ひとりの把握

14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや意向を把握するために担当の職員において信頼を深めると共に定期的にローテーションを行い、職員全員が利用者の思いを把握できるように努めている。</p>		
----	----	--	--	--	--

2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意向を参考に毎月の職員会議でアセスメントを含めて意見交換し、モニタリング、カンファレンスを行っている。職員は担当利用者の日頃の変化や重要事項があれば、ホワイトボードに記載して全員に知らしめている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者のアセスメントに変化があれば毎月の職員会議で検討し、利用者や家族の要望を取り入れながら介護計画を見直し、家族に報告し確認を得ている。</p>		


3.多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通所利用者の送迎や利用者の通院送迎サービスを行っており、また通所において家族から要望があれば利用時間の変更したり柔軟な支援を行っている。</p>		
----	----	---	---	--	--

4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制を実施し看護師との24時間オンコール体制をとっている。利用者のかかりつけ医への通院体制を支援したり、町立病院医師と連携を図り、往診体制を整えている。</p>	
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所は、利用者や家族の依頼により、ターミナルケアを実施しており、利用者、家族、看護師、担当医と話し合い意思確認書を作成している。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者の尊厳を遵守し、ミーティングや職員会議でプライバシーの保護の徹底や個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底に努めている。</p>	
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的に事業所の日々の生活のプランはあるが、利用者一人ひとりのその日の思いを把握して配慮し、できるだけ個別性のある支援を行っている。</p>	

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は利用者と相談しながら決めている。利用者の高齢化が進み、買出しや食事の盛り付け、後片付けはサービスの利用者が行っている。	
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4回実施している。利用者の体調やタイミングなど考慮しながら入浴を促し支援している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の高齢化が進み、年々趣味が変化しているが、その時の体調に合わせて楽しみながらできるゲームに取り組んでいる。	
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今年は町中に「マイマイガ」が異常発生し、外出すると衣服に「マイマイガ」の卵が付着するなどの被害にあうため戸外の外出はできない状態であった。	
(4) 安心と安全を支える支援				
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵のかけないケアを理解しており、玄関は施錠せず、サービスや町内の人が自由に出入りしている。	

27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防訓練は年2回実施しており避難訓練には地域の住民が参加し協力している。今年はスプリンクラー消火設備、自動火災報知設備、火災通報装置を設置している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の日々の食事量や水分摂取量をチェックし記録している。利用者一人ひとりの体調や咀嚼に合わせて調理するなど支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1回のロビーの天井は、吹く抜けて明るく開放感があり、季節の花や観葉植物を置いている。家庭的な雰囲気ができるような飾り付けをしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の各居室は好みの家具やベットを置き、その人らしく暮らせるように工夫している。</p>		

 は、重点項目